

会 議 録

名 称	平成30年度 目黒区廃棄物減量等推進審議会（第1回）
日 時	平成30年9月26日（水）午前10時～正午
会 場	目黒区総合庁舎本館1階 E会議室
出席委員 （敬称略）	安井、庄司、平尾、田島、山宮、岩崎、吉野、原、團村、亀甲、大月、藤橋、小林（雅）、 小林（節）、木村、押切
区側職員	田島環境清掃部長、秋田清掃リサイクル課長、佐藤環境保全課長、大迫清掃事務所長
傍 聴 者	0名
配布資料	資料1 第9期目黒区廃棄物減量等推進審議会委員名簿（平成30年5月24日現在） 資料2 平成29年度目黒区のごみ量と資源回収量について 資料3 「MGR100プロジェクト」について 資料4 「めぐろ買い物ルール」の推進について 資料5 事業所に対する適正排出指導について
会議次第	<p>1. 開 会 20人中、出席者は16人であり、半数以上の出席があるため定足数を満たしており、会は成立する。</p> <p>2. 議題 以下、発言者名・名称は下記のとおり表記する。 環境清掃部長・・・・・・・・・・部 長 清掃リサイクル課長・・・・・・リ課長 清掃事務所長・・・・・・・・・・事務所長 環境保全課長・・・・・・・・・・環課長</p> <p>（1） 第9期目黒区廃棄物減量等推進審議会委員名簿 リ課長 （資料1により説明）</p> <p>（2） 平成29年度目黒区のごみ量と資源回収量について リ課長 （資料2により説明）</p> <p>委員 区の人口が増加しているが、世代別の構成や傾向はどうなっているか。 リ課長 世代別の詳細は把握していないが、人口動態が大きいことや人口増がごみ量の増加につながったと考えている。 会長 粗大ごみの増加は流出人口が多いことが要因だと思う。人口増の内訳についても調べるとよい。 リ課長 粗大ごみは23区全体で増加している。区では引っ越しの際に出るごみについても普及啓発をしているところである。 委員 古布類の回収については、どれくらいの団体が登録しているか。紙パックの拠点回収場所はどこか。 リ課長 古布類については79団体が登録している。紙パックの主な回収場所は、区総合庁舎やエコプラザ、消費生活センターなどの施設である。 委員 リサイクル率が年々減少している。区内には単身者が多くワンルームマンションも多い。ごみをきちんと分別していなかったり、マンションの管理人が資源を燃やすごみとして出してしまうこともあるようだが、何か対策を講じているか。 リ課長 23区全体で資源回収量は減少傾向にある。資源の中で大きな割合を占めるのが古紙だが、紙媒体から電子媒体への移行により新聞などの販売部数が減少している。燃やす</p>

	<p>ごみに混ざっている雑がみ等を資源として出してもらう取組や水切りによるごみ減量などの普及啓発を推進し、リサイクル率の向上につなげていく。</p>
委員	事業系のごみ量はどうか。
リ課長	事業系（持込）ごみ量は28年度20,433トン、29年度20,719トン（未確定）であり、23区では少ない方である。
委員	使用済小型家電や蛍光管回収についての普及率や周知方法はどのような状況か。
リ課長	区をはじめ23区全区が「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加している状況である。蛍光管等の水銀を含む製品は28年度から回収を行っており、今後も普及啓発に取り組んでいく。
委員	スーパー等で回収しているトレイや紙パックなどについても、区のリサイクルとしてみるなど、事業者と連携して取り組むことはできないか。
リ課長	MGR100プロジェクトでは事業者からのごみ減量アイデアを募集している。事業者と連携した普及啓発に今後、取り組んでいきたい。
委員	規模の小さいマンションではごみの分別がされていないのが目立つ。ごみ袋に表記するなど、皆でいいアイデアを出していければと思う。
リ課長	清掃事務所では集積所等における排出指導を行っている。今後も積極的にごみの適正排出に向け取り組んでいく。
委員	分別されたものがどれくらい再利用されているのか。
リ課長	ペットボトル及びプラスチックは全て国内で循環しており、資源として出されたものは不適切なものを除き、全てリサイクルされている。
委員	古布類の回収量が28年度から増加した経緯と回収制度について教えてほしい。
事務所長	古紙にくらべ古布類のリサイクルルートは確立されていない。古紙回収業者でも古布の回収は行っていないところもあり、回収できるところから行っているのが実態である。回収後の用途は把握していない。
委員	蛍光管は水銀として回収されているが、LEDはどのように回収するか。
会長	LEDには水銀が含まれないので不燃ごみとなる。
委員	冊子に明記する必要があると思う。
リ課長	来年度に向けて、適宜修正する。
委員	引っ越しシーズンには、ごみが分別されず出されることが多い。防犯カメラで排出者を追跡するなど、区の意識が高いことを示すことも大切ではないか。地域と協力した対策や行動として示す、表記として残すなどの対策が大切だと思うがいかがか。
リ課長	引っ越しごみについては、単身者向けに発行しているパンフレットにチェックリストを掲載するなど普及啓発に努めている。今後も清掃事務所と連携しながら引き続き排出指導の強化を図っていく。
委員	販売店等が回収する古紙については、把握しているか。
事務所長	回収量などの把握はしていない。
	<p>(3) 「MGR100プロジェクト」について</p>
リ課長	(資料3により説明)。30年度第1回は、8作品の応募があった。
委員	MGR100に限ったことではないが、イベント等での普及啓発をもっと活発にしたらよい。区民まつりでは、例年、エコステーション（ごみ分別拠点）にボランティアの他に職員が配置されていたが、今年はいなかった。エコを推進する部署の職員は参加した方がよい。事業系ごみの行方などを区民から質問された際に、きちんと対応ができるよう、行政はきちんとボランティアと連携を図ってほしい。事業系ごみについて事前にホームページで確認したが、わかりにくかったので工夫してほしい。

事務所長	区民まつりで出るごみは、区の収集ではなく直接、収集業者と契約する事業系ごみとなる。燃やすごみは清掃工場へ、ペットボトル等はリサイクル業者へ持ち込んでもらっている。今年は職員体制が整わず区民まつりに参加できなかった。
会長	産業廃棄物の持込先は業者によって違う。
委員	ペットボトルのフタは分けて、それだけ集めた方がよいか。
会長	ペットボトルとフタは分ける。フタは他の「プラスチック製の容器・包装」と一緒に出してよい。
委員	MGR100 はとてもいい取組だと思う。さらに区全体としてムーブメントを高めていく必要がある。ごみ減量キャラクターが多すぎるので区の象徴的なものに統一することも大事。MGR100 とめぐろ買い物ルール（以下「買い物ルール」という。）をリンクさせて掲げているが、運動論としてのテーマは一つでよい。MGR100 のアイデアを募集すると同時に、区長や教育長の家庭での取組を撮影し、おもしろおかしく動画としてアップするなど、話題性をつかみながら展開する方向を考えていくとよい。リサイクル推進の先陣を切ってきた区だけにアプローチの仕方をより工夫し、集約化していく必要がある。
リ課長	MGR100 と買い物ルールは同じ方向を指しているものであるが、よりわかりやすく効率的なものになるよう検討していく。ごみ減量キャラクターのゴミラスとクリンは、年間を通して行っている環境学習で子ども達に大変人気がある。キャラクターに限ったことではないが、子どもへの普及啓発は重要だと認識している。家庭で機運を醸成し、それが社会を形成していくことにつながると考えている。
委員	環境学習にはとても手ごたえを感じている。大切なのは運動論を展開したままでなく、集約し結果として形を残すことだと思う。29 年度は大岡山小学校が授業の一環として取り組み、ごみ減量アイデアに応募したことなどが事例として挙げられる。
リ課長	昨年度のごみ減量アイデア作品はホームページに掲載し、パネル展示等でも紹介したところである。MGR100 については、手を広げるだけでなく、きちんと成果を出せるように取り組んでいきたい。
委員	昨年度、大岡山小学校からたくさん応募があったとのことだが、働きかけはしたのか。
リ課長	夏休み前に合同校（園）長会で MGR100 ごみ減量アイデア募集の依頼を行ったところ、1 月頃、学校側から連絡があり応募につながった。
委員	昨年度の審議会でも普及啓発品の案内があったので、清掃車の形をしたペーパークラフトを地域の集まりで配布したところ、子ども達が大変喜び、啓発効果があると思った。普及啓発品については、今後、早めに見せてもらえると他の地域の集まりなどにも配布ができる。
リ課長	今後もさまざまな意見をいただき、工夫しながら効果的な普及啓発品を作成していく。
	(4) 「めぐろ買い物ルール」の推進について (資料 4 により説明)
委員	無駄なものを買わないために、お腹が空いているときに買い物に行くのをやめるだけでもごみ減量につながると思う。
リ課長	買い物ルールは、誰にでもできるルールであり、無理のない範囲で取り組んでもらいたい。
委員	「1 日 1 回、ノーレジ袋のすすめ」の「1 日 1 回」は不要ではないか。買い物ルールを広める会（以下「広める会」という。）は誰が中心になって行っているのか、明らかにした方が区民の信頼度が増すと思う。
会長	レジ袋をごみ袋として利用する人もいる。レジ袋を有料化した場合、ごみ袋をわざわざ購入しなければいけないのか、どちらが環境にやさしいのかという問題もあるが、

委員	ごみの減量や環境のためには、レジ袋は有料化にするのがよいと思う。
委員	東急ストアでは、ほとんどの店舗でレジ袋は有料化していない。レジ袋辞退者には、ポイントを付与している。レジ袋の有料化については、リサイクルに対する意識が高い地域では反発はないかもしれないが、地域差があり難しい面もあると感じている。
委員	商店街に買い物に来る人は、昼間はマイバッグ持参者が多いが、夜はレジ袋を利用する人が多い。
委員	広める会は発足して10年以上が経過した。最近では買い物ルールを知らない区民が多くなってきているのを感じる。一方、「1日1回、ノーレジ袋のすすめ」の「1日1回」はなくてもよいくらい、レジ袋はいらないものだという認識が広まってきている。今後は、海洋プラスチックごみや食品ロスの視点を踏まえるなど、買い物ルールを見直していくのもよいと思う。
会長	海洋プラスチックごみは国際的な問題となっている。日本は生態系の保全を考えていない国だと言われかねない状況にあり、国際的な風当たりも強い。また、世界では食品が十分に行き渡っているとはいえない国もあり、食品ロスについても取り組んでいく必要がある。それらを踏まえ、買い物ルールを見直していくのがよい。世界的に見ると、日本では「便利にすること」が正義とされ、フランスでは「人間は便利になると変なことをやりはじめる」という認識がある。パリ協定のCO2削減の原理原則はそのあたりにあるのかもしれない。フランスはいずれ、プラスチック及びペットボトルの製造は廃止になると思う。日本の文明は将来、何を指すのかを議論していかないといけない。
委員	バルト三国を旅行して驚いたのは、レジ袋が派手な赤色で1枚1ユーロだったことである。レジ袋を利用するのは観光客のみで、地元の人々はマイバッグを持参していた。日本でもレジ袋を有料化したらよいと思った。
会長	ヨーロッパでは、レジ袋を出さない方針であり、欲しい人は高いお金を払えという発想である。
委員	ペットボトルをなくした場合、どういう方向になっていくのだろうか。
会長	缶などの容器に代わる可能性はある。ヨーロッパで先にペットボトルをなくすのは、おそらくフランスだと思うので、注視していくとよい。
	(5) 事業所に対する適正排出指導について (資料5により説明)
委員	事業形態別の内訳は把握しているか。
部長	産業経済・消費生活課では、経済センサスに基づき、区の事業所の実態についての報告書を作成しているので、確認をする。
会長	全事業所を巡回するのは大変だと思う。優良な事業者を認定し報告してもらおう形にするのがよい。優良な事業者をホワイトリストとして登録し時々調査を行い、グレーになっていたら指導するなどの方法が効率的でよいと思う。
事務所長	実態調査を兼ねており全事業所を巡回している。不適切な排出については見つけ次第指導を行っている。
委員	水銀を含む製品の回収などは、店頭などの販売店回収があってもよい。古布回収は持ち込むと特典がつく店などがあり、もっと広がればよいと思う。びん・缶のコンテナの色は利用している人だけが分かればよいので、景観を損ねないように地味でよい。集積所の看板ももっと小さくてよい。区によってごみと資源の分別方法が違うので、引越した人は、混乱してしまう。23区で統一してほしい。
会長	23区は他の自治体と違って特殊な形態となっており、各区で分別方法等を定めることができるようになっている。

	<p>委員 ごみを処分するには、お金がかかる。清掃工場がある区とない区では立場の違いがある。立地などによっても条件が異なるので、23区で統一するのは難しい。</p> <p>委員 年齢層や地域差もあるが、隣接区とは調整した方がよい。</p> <p>リ課長 プラスチックなどのリサイクルについては義務ではないため、できる区が行っているのが実態である。23区の課長会等では他区との意見交換を行っており、統一できるものはしていく考えである。</p> <p>3. その他</p> <p>リ課長 次回は平成31年1月30日に開催する。</p> <p>4. 閉会</p> <p style="text-align: center;">以 上</p>
--	--